

講義名	(対面)リーダシップ養成B		
科目区分	教養一般		
担当教員	石黒 太 / 南木 陸彦		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 3時限	授業形態	
	2020年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2020年度 人間社会学部 観光学科 / 2020年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2020年度 経済学部 経済情報学科 / 2020年度 経済学部 経済学科 / 2020年度 商学部 マーケティング学科 / 2020年度 商学部 経営学科 / 2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース / 2019年度 人		
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
リーダシップ論等を学び、グループで活動することを通して、自らの特徴を生かしてリーダシップを発揮する力を養う。さらにはその力を、実際に発揮する。まずリーダシップとは何かを学ぶ。次に講義前半では、2020年度の「自己発見とキャリア開発A」等の「気づきの教育」を振り返り共有した上で、「Ryuka 祭」の実施と関連して独自の展示物等を作成する。講義後半では、2021年1月頃～2021年度にかけて実施される様々なプログラムについて、立案したり改善案を作成したりする。その中には2021年度の「自己発見とキャリア開発」のいくつかのプログラムも含まれている。この科目と共に前期の科目である「リーダシップ養成A」も受講し、「自己発見とキャリア開発」のCAとしての能力向上をしていただくことも期待している。CAとして登録されない場合でも、本学の様々な活動の場でリーダシップを発揮することを期待している。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の特徴を生かしたリーダシップを発揮することができる ・「自己発見とキャリア開発」等の「気づきの教育」の体験や成果を、言葉、文章、図表等で表現することができる ・Ryuka 祭の実施と関連してリーダシップを発揮して活動する ・様々なプログラムについて、立案したり改善案を作成することができる。

提出課題
様々なワークシートを授業内で作成する。 「自己発見とキャリア開発」等の「気づきの教育」の体験や成果を示したRyuka祭と関連した展示物を作成する。 2021年1月頃～2021年度にかけて実施される様々なプログラムについて、立案したり改善案を作成する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
提出物については、授業中に講評したり返却したりする。

評価の基準
授業への積極的な参加、成果物の出来栄、Ryuka祭と関連して、この科目で身に付けたリーダシップを発揮したかどうか、を総合して評価する。

履修にあたっての注意・助言他
この科目は基本的には対面で実施する。コロナ禍との関連で対面での授業が実施できない場合は、オンラインのLiveで実施する。この科目では授業時間外に、Ryuka祭と関連した展示物作成等をグループで実施するので、授業時間外の「学習時間」が相当長くなる。あらかじめ心づもりをした上で受講していただきたい。 また、この科目の受講者には、ぜひ2021年度の「自己発見とキャリア開発」CAとして登録していただきたい。そして、この科目で学んだリーダシップを生かして、2021年の春休み中に入学前教育の「先輩交流」等の担当や運営補助をお願いしたい。 またさらに2021年度の「自己発見とキャリア開発」のCAとしては、「先輩交流」を担当すると共に、担当教員のクラス運営への協力をお願いしたい。また、一部のプログラムでは、ファシリテータとして活躍していただく可能性もある。

教科書
.使用しない。

プリント資料及び参考文献
授業中に配布する

授業計画
基本的には対面授業で実施する予定です。 シラバス執筆時の予定であり、受講生数等により変更する可能性があります 1. キックオフ(講義の狙い、アイスブレイク、チーム形成) 2. リーダシップとは何か 3. 気づきの教育振り返り・共有 4. Ryuka祭関連展示立案チーム活動1 5. Ryuka祭関連展示立案チーム活動2、中間発表・相互評価 6. Ryuka祭関連展示立案チーム活動3 7. Ryuka祭関連展示立案チーム活動4 8. Ryuka祭展示立案最終発表、Ryuka祭前日～当日予定作成

授業時間外活動：Ryuka祭関連展示前日等準備、オンライン来訪者への説明等の活動をする可能性があります
9. Ryuka祭振り返り、各種のプロジェクトの説明、チーム形成 10. プロジェクトごとのチーム活動1 11. プロジェクトごとのチーム活動2 12. チーム活動結果中間発表と相互評価 13. プロジェクトごとのチーム活動3 14. プロジェクトごとのチーム活動4 15. プロジェクトごとの計画最終発表、全体まとめと今後の予定の確認

授業形態（アクティブ・ラーニング）
<input type="checkbox"/> ア：PBL（課題解決型学習）
<input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/> エ：グループワーク
<input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション
<input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
授業時間外に、Ryuka祭関連展示の作成をするなど、チームごとに打ち合わせ等の時間が必要になる可能性が高い。このような事情で、授業時間外の「学習時間」が相当長くなる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
この授業はグループワークを通じて、受講生間並びに受講生と担当教員間で相互啓発的な形で進めます。オンライン授業となった場合も、同様にグループワークを実施します。

実務経験の有無及び活用

備考